



SVPインサイトVol.34

スマート農業

～国内市場の現状と将来展望～

本レポートは、2024年1月発行の注目市場分析レポートに基づき作成しております。
また、上記レポートは当社会員向けに提供しております。

I. 市場の定義

スマート農業は、AIやICT、ドローンなどの先端技術を活用し、農業の生産性向上と持続可能性を実現する取り組みである。人口の高齢化と後継者不足の問題が進んでいることもあり、農林水産省でもその普及を推進している。スマート農業のための製品やサービスとして、農業向けの経営・生産管理システム、ロボットトラクター(無人トラクター)や農機の自動操舵システム、農業用ドローン、水田の水管理システム、圃場・施設環境モニタリング、さらに、リモコン草刈機やアシストスーツなどを挙げている。

本レポートでは、これら主要製品やサービスの国内市場動向とマーケットシェアを、メーカー出荷ベースやクラウドサービスの売上ベースで推定し、調査した。

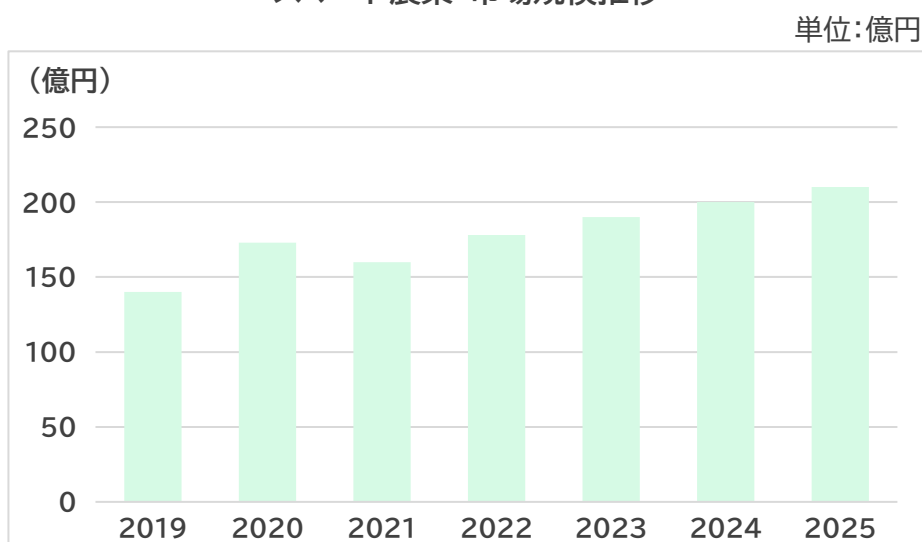
II. 市場動向

日本の農業では、労働者の減少と高齢化が進む中で、耕作放棄地が増加し、技術の継承が困難という課題がある。これに対し、スマート農業が重要な解決策として注目されている。スマホでの管理システムやドローン、ロボット農機の活用により省力化が進み、また、作業記録をデータとして蓄積することで、技術の標準化が可能になりつつある。農林水産省は、2020年に「スマート農業推進総合パッケージ」を策定し、スマート農業の普及を推進している。また、コロナ禍による経営継続補助金により、システム導入が大幅に加速したこともあり、今後も市場の拡大が見込まれる。

III. 市場規模・予測

スマート農業市場は、2022年に178億円規模に達成し、2020年の経営継続補助金により、前年比20%以上の成長を見せたが、2021年には一時的に縮小。その後、2022年には再び成長、2025年には210億円に達すると予測され、年平均5%の成長が見込まれている。主力カテゴリーはGNSSガイダンスシステム/自動操舵システム(40%以上)、圃場・施設環境モニタリングシステムと農業用ドローン(各20%前後)で、これら3つで市場の85%以上を占めている。長期的にはロボット農機市場の拡大が見込まれている。

スマート農業・市場規模推移



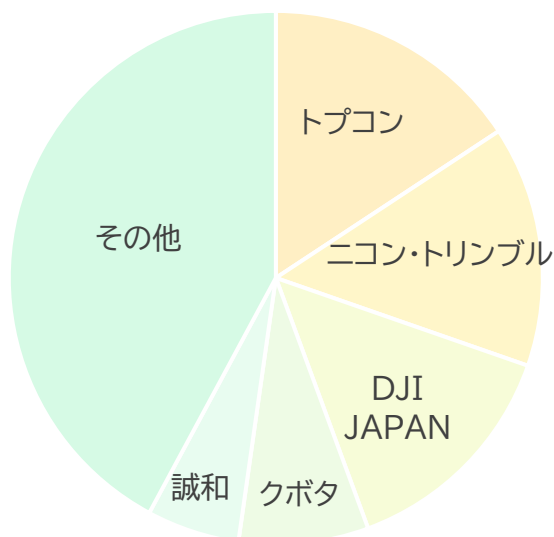
SVPジャパン推定

IV. マーケットシェア

GNSSガイダンスシステム/自動操舵システムの主要メーカーであるトプコン、ニコン・トリンブル、農業用ドローンのトップメーカーであるDJI JAPANが上位3社となっている。

以下、農業用ドローンの販売を中心にクボタ、圃場・施設環境モニタリングシステムの販売で誠和のシェアが高い。

スマート農業・マーケットシェア(2022年)



※SVPジャパン調べ

V. 参入企業の動向

スマート農業市場では、トプコン、ニコン・トリンブル、DJI JAPANが主要プレイヤーとして高いシェアを確保している。トプコンは精密GNSS技術を所有し、農業向けのシステムでシェアを拡大。ニコン・トリンブルも高精度測量技術を活用し、トプコンと並び同市場で存在感を示している。DJI JAPANは、農薬散布ドローンで圧倒的なシェアを獲得。クボタはロボット農機やドローンの展開でシェアを拡大し、誠和は、圃場・施設環境モニタリングシステムを「プロファイnder」シリーズとして販売し、トップシェアを確立。その他の企業も各分野で競争が活性化している。

VI. 業界構造

スマート農業の関連機器・サービスの開発には、農業機器・資材メーカーだけでなく、測量機器、産業機器、ドローンメーカー、情報通信企業、農業分野のベンチャーなど、多岐にわたる分野から多くの企業が参入している。関連機器の流通は、個人農家や農業法人向けでは、一般的に農業資材や産業機器を扱う卸会社や農協で販売される。また、スマート農業の実証実験を行う農協や農業試験場などの研究機関がユーザーの場合、メーカーからの直販が多い。



1分でわかる

SVP会員制 ビジネス情報サービス



1. ビジネス情報収集における環境の変化

環境の変化が激しく、将来の予測が非常に困難な時代に入

変化①

社会環境の変化



- ✓ 戦争の勃発
- ✓ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行
- ✓ 気候変動

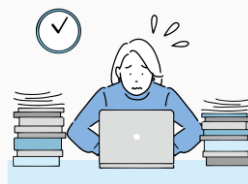


変化②

ビジネス環境の
変化



- ✓ テクノロジーの進化
- ✓ グローバル化
- ✓ 新世代の台頭
- ✓ 破壊的企業の躍進



組織的な課題に直面



2.企業が直面している3つの課題

これまで以上に、迅速で的確な情報収集・分析能力が求められています

1 幅広いビジネス 情報のアクセス

幅広い事象に関して、
スピーディーにアクセスできる
環境の整備



3 成長が期待される 新市場の動向把握

事業機会の可能性がある全ての
市場や企業動向を認識する
ケイパビリティの有無



2 質の高い情報の獲得 (重要領域での質の担保)

信頼できる上質な
ビジネス情報を収集できる
環境の構築



3.当社サービスが提供する価値



ビジネス情報に関する皆さまの課題を当社が解決いたします！

SVP会員サービス



解決① クイックリサーチ

I.

膨大なビジネス公開情報へアクセスし、スピーディーに最適な情報を提供

解決② プロジェクトリサーチ

II.

カスタム調査を通じて、質の高いビジネス情報と分析アウトプットを提供

解決③ SVPナレッジ

III.

当社が定義する、メガトレンドや注目市場の動向予測レポートを提供

年間契約で3つのサービスをご提供します



I. クイックリサーチ

活用シーン

- ・日々のリサーチ作業をアウトソースして、分析や戦略立案など付加価値業務に注力したい。
- ・ニーズに合ったビジネス情報を、スピーディーにわかりやすくまとめて提供して欲しい。

特徴

- ✓幅広いビジネス公開情報の活用
- ✓プロのリサーチャーによるニーズ把握と最大2時間の調査
- ✓わかりやすくまとめたレポートでご報告

納期 最短2日営業日以内

III. SVPナレッジ

活用シーン

- ・メガトレンドを中心とした、将来、事業に影響を与える環境要素は何か知りたい。
- ・①Z世代、②サステナビリティ、③テクノロジー、④新興国を含む海外市場、⑤破壊的企業の動向を把握したい。

内容

- ✓SVPメールマガジン
- ✓SVPインサイト
- ✓SVP注目市場分析
- ✓SVPトレンド調査

配信頻度 月1回以上

II. プロジェクトリサーチ

活用シーン

- ・公開情報では公表されていない、市場や業界、企業、消費者の情報収集がしたい。
- ・自社の事業領域に関する、質が高く、ニーズに即した情報を入手して、ビジネスに即活用したい。

特徴

- ✓広範なカスタム調査・分析
- ✓デスクリサーチ
- ✓ヒアリング調査
- ✓Webアンケート調査

納期 調査内容に応じて決定

5.導入実績



年間調査実施数
約15,000件



商用DBシステム利用
20システム



国内外企業財務情報
4,000万社以上



SVPネットワーク
世界40カ国の広がり

日本の売上高トップ100社中7割の企業でのご利用実績 導入企業600社以上





—SVP JAPANのサービスについて—

2営業日以内に調査結果をご報告

クイックリサーチ

[詳しくはこちら](#)

カスタムメイドのリサーチサービス

プロジェクトリサーチ

[詳しくはこちら](#)



—各種お問い合わせ—

資料ダウンロード

[こちらをクリック](#)



お問い合わせ

[こちらをクリック](#)



s'il vous plaît
SVP JAPAN
株式会社SVPジャパン

まずはお電話でもお気軽にお問い合わせください。

TEL : 03-3249-0771

